

育む

自分の意見持ち議論/周囲と協力



リーダーシップの考え方をともに、委員会活動のアイデアを出し合う児童ら(7月、東京都立区立立花保小)

「皆がリーダー」  
小学校から教育

学校でリーダーシップについて学ぶ機会が広がっている。「リーダー」が意味するのは、社長や政治家など集団のトップに立つことだけではない。組織でどんな立場にあっても自分の意見を持ち、周りや協力して物事を進める力も含まれる。先進的なリーダーシップ教育の事例がある海外から学ぶ動きも活発だ。

「シナジー(相乗効果)を發揮して、新しい企画を考えてみて。7月上旬、東京都立区立立花保小の学活の授業で、戸田博之教師が6年生84人に語りかけた。

掃除や体育、飼育など10の委員会ごとに、新たな活動を立ち上げることをアーマに話し合った。戸田教師は「連う意見が出たら『おもしろい』もって聞かせて」と言ってみると「いよ」と伝え、議論は白熱した。

前年度の経験で終わってしまいがちな委員会活動。だが、学校のまとも役に当たる代表委員の児童らは「6年生の卒業式や1年生の入学式のように、2〜5年生にも進級会を開きたい」など新たなアイデアを発表した。飼育委員からは、学校で飼うクジャクについて

海外の学生に学ぶ場も

降の委員会活動に反映されていく予定だ。戸田教師によると、子どもたちの意見を引き出したのは「シナジー」の考え方。異なる意見をおもしろがって聞き合うことで、新しい世界が広がる。その助言するだけで、子どもたちの議論は大きく変わるという。授業で用いる考え方は、世界的なベストセラーのビジネス書「7つの

「リーダーシップ教育」だが、欧米では先進的に行われている。海外から刺激を受ける生徒も増えている。

7月下旬に関東の公立8高校の生徒27人が、米スタンフォード大学での5日間の講座に参加した。埼玉県立浦和高2年、岡部泰良さん(16)は「学校委員や生徒会長など特定の人が経験を通じて学ぶものだと思っ

の考え方を導入し、授業以外にも運動会など学校行事で活用し、取り入れてきた。半田英雄校長は「うまくいかないことも、周りのせいにはせず、自分の生活に責任を持って生きる力を身に付けてほしい」と狙いを語る。

日本では聞き慣れない「リーダーシップ教育」だが、欧米では先進的に行われている。海外から刺激を受ける生徒も増えている。

7月下旬に関東の公立8高校の生徒27人が、米スタンフォード大学での5日間の講座に参加した。埼玉県立浦和高2年、岡部泰良さん(16)は「学校委員や生徒会長など特定の人が経験を通じて学ぶものだと思っ

日本経済新聞(夕刊)2019年8月20日付

※本記事の著作権は日本経済新聞社に帰属します。記事・画像等の無断転載はお断りいたします。